定本 與謝野晶子全集

第二卷

講談社

定本　與謝野晶子全集

第二卷　歌集二

昭和五十五年二月十日　第一刷發行

定價　二千九百圓

著者　與謝野晶子

發行者　野間省一

發行所　株式會社　講談社
東京都文京區音羽二―二―二
郵便番號一二一　振替東京八―五六〇
電話東京(〇三)九四五―二一一(大代表)

組版　株式會社　熊谷印刷

印刷所　多田印刷株式會社

製本所　大製株式會社

落丁本・亂丁本はお取替えいたします
© 與謝野　光　一九八〇年

0392-261126-2253 (0) (文事)　Printed in Japan

凡例

一、歌集本文の歌は初刊の単行本を底本とし、拾遺は初出誌・紙より収録した。
一、本文（拾遺を含む）、脚注ともに、漢字・かな使いの表記は原本に依拠した。
一、校訂は初出誌・紙、および新潮社版、改造社版を使用した。
〔初〕……初出誌・紙を示す。
〔新〕……新潮社版『晶子短歌全集』（大正八～九年刊）を示す。
〔改〕……改造社版『與謝野晶子全集』（昭和八～九年刊）を示す。
一、本文中の誤植と考えられるものは※印をつけ、→印で正しいものを示した。ただし、本文の〔初〕〔新〕〔改〕と拾遺の歌については、誤植と思われるものは原則として正した。
一、〔初〕における表記の意味は次の通りである。
例　黑髪—小天地　明34・8（雑誌「小天地」の明治三十四年八月号に黑髪の題名で収載。）
一、校異は脚注として付した。
例　〔初〕みづあふひ—明星　明37・8　(2)(3)銅にはあれど御佛は（(2)(3)は第二句第三句を示す。ただし、校異が三句以上にわたるものは全句を記した。）
一、〔初〕では初出誌・紙以外の出典を㊂で示したものもある。
一、新聞名は以下の通り略記した。
大阪毎日新聞→大阪毎日　東京日日新聞→東京日日
東京毎日新聞→東京毎日　二六新報→二六
都新聞→都　萬朝報→萬
一、〔新〕〔改〕初版同は新潮社版、改造社版が底本と同じで、〔改〕新同とあるのは、改造社版が新潮社版と同じであることを示す。
一、〔新〕〔改〕などがない場合は、新潮社版、改造社版に採られていないことを示す。
一、脚注の通し番号は底本における歌の順序を示す。

目次

佐保姫　一
明治四十二年
春泥集　七
明治四十四年
青海波　一六七
明治四十五年
拾遺　二四七
明治四十一年……二九九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

明治四十二年……二六六
明治四十三年……三二一
明治四十四年……三五六
明治四十五年……四四〇

解題　逸見久美
解説　木俣修

装幀　アド・ファイブ

佐

保

姫

この五日うつし心もなきわれは狐の墳を踏みてこしかも

撥に似しもの胸に來てかきたたきかきみだすこそくるしかりけれ

彼の人は七面鳥を調じたるあつものをのみほめてかへりぬ

變らじとすれど心のうごく時みそぎしにゆく手枕のうへ

男にて鉢叩きにもならましを憂しとかかこちうらめしと云ふ

大鳥の爪にしたたる血さへ吸ひ山にありしもさとらむがため

西方の垂天の雲むらさきに東方の山青きゆふぐれ

1〔初〕(無題)—萬　明41・10・17(5)
けだし踏みしかも(参)新詩社詠草—明星　明41・11
〔新〕(1)この日ごろ(5)踏みてきぬらん
〔改〕(4)(5)狐の塚を踏みて來にけん

2〔初〕新詩社詠草—明星　明41・11
(参)(無題)—二六　明41・12・6
〔新〕(1)撥に似る
〔改〕新同

3〔初〕(無題)—萬　明41・10・24(参)
新詩社詠草—明星　明41・11
〔新〕初版同
〔改〕初版同

4〔初〕新詩社詠草—明星　明41・11
(3)(4)動くときみそぎしに行く(参)
(無題)—都　明41・11・29
〔新〕初版同
〔改〕(4)みそぎしに行く

5〔初〕ゆづり葉—新聲　明42・1(2)
鉢たたきにも
〔新〕(4)憂しやと歎ち
〔改〕(4)憂しともかこち

6〔初〕雁來紅—明星　明41・10

7〔初〕雁來紅—明星　明41・10
〔新〕(1)西のかた(5)あをきゆふぐれ
〔改〕(2)垂天のくも(5)あをきゆふぐれ

玉くしげ箱の蓋とるごとくにも山しとりなば鳥立つらむか

ものがたり一なき上手の話よりもののあはれを思ひ知りにき

戀ひぬべき人をわすれて相よりぬその不覺者この不覺者

わが脊子とかきかはしたる文がらの古き香かげば春日しおもほゆ

見るかぎり繪などに書きておきたまへ一いろならぬ心の人を

君悼むことばとてしも身をつくし文かきしよりもの思ひする

かけひより青銅の壺に水おつる音をおもひぬ春の夕ぐれ

8 〔初〕雁來紅—明星　明41・10
〔改〕(4)山し取りなば

9 〔初〕(無題)—萬　明41・7・25(1)
〔改〕物語(3)はなしより㊂新詩社詠草—明星明41・8
〔新〕初版同
〔改〕初版同

10 〔初〕新詩社詠草—明星　明41・7
〔改〕(2)人を忘れて㊂(無題)—都明41・7・15
〔新〕(4)彼の不覺者
〔改〕初版同

11 〔初〕(無題)—大阪毎日　明42・3・20
〔改〕(5)春日しおぼゆ㊂(無題)—萬明42・4・3
百首歌—スバル明42・5

12 〔初〕紘餘集—スバル　明42・1(2)
〔改〕(3)書などに書きて置き給へ
〔新〕初版同
〔改〕初版同

13 〔初〕新詩社詠草—明星　明41・11
〔改〕初版同

14 〔初〕新詩社詠草—明星　明41・11
〔新〕初版同
〔改〕(1)かけ樋より

あさましく雨のやうにも花おちぬわがつまづきし一もと椿

少女子は魚の族かとらへむとすればさまよく鱗ふりて逃ぐ

わが前に紅き旗もつ禁衛の一人と君をゆるしそめにし

その日よりまた足踏まずたはぶれはおささおさ知らぬ少女となりぬ

朝顔の蔓きて髪に花咲かば寝てありなまし秋くるるまで

篠の葉を鳴らす風かなおりたちて鰕吸む川の有明月夜

さくら人髷ならべたるうしろをば走りて過ぎぬ燕とわれと

15〔初〕椿—帝國文學　明42・1
〔改〕〔新〕〔初版同〕

16〔初〕〔新〕新詩社詠草—明星　明41・11・23
〔改〕〔新〕(1)思ふ子は　参(無題)—二六
〔初版同〕

17〔初〕紘餘集—スバル　明42・1
〔改〕〔新〕〔初版同〕(無題)—二六　明42・2・28　参

18〔初〕新詩社詠草—明星　明41・7
〔改〕〔新〕(2)また足ふまず　参(無題)—都　明41・10・14
〔初版同〕

19〔初〕雁來紅—明星　明41・10
〔改〕〔新〕〔初版同〕(5)秋暮るるまで

20※(4)吸む→汲む
〔初〕雁來紅—明星　明41・10(4)ゑび汲む川の有明月夜
〔改〕(1)笹の葉を(3)おり立ちて　参(無題)—大阪毎日　明41・10・17
〔初版同〕

21〔初〕雁來紅—明星　明41・10(4)走りてすぎぬ
〔改〕〔初版同〕

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

うごきなき湯津巌むらとおもひしは螺の殻のあさましき床

三尺のたななし小舟大洋におのれ浮沈す人あづからず

戀をしていたづらになる命より髪のおつるはをしくこそあれ

やごとなき君王の妻にひとしきはわがごと一人思はるること

冬のこし君がこころの科にとぞわれは日ねもす皮ごろも縫ふ

樺いろの雲の中よりこしと云ふ童にまじり朝寢しぬるも

明星の光りの生みしあけがたの風のたぐひか山ほととぎす

22〔初〕雁來紅—明星　明41・10
〔新〕(2)五百づ巌むらと
〔改〕(2)ゆづ巌むらと(4)螺の殻の

23〔初〕新詩社詠草—明星　明41・7
参(無題)—二六　明41・7・7
〔新〕初版同
〔改〕初版同

24〔初〕雁來紅—明星　明41・10(3)いのちより惜しくこそあれ
〔新〕(5)惜しくこそあれ
〔改〕(4)(5)髪の落つるは惜しくこそあれ

25〔初〕雁來紅—明星　明41・10(5)おもはるること参(無題)—萬明41・10・10
〔新〕初版同
〔改〕(4)我がごと一人

26※(3)科→料カ
〔初〕雁來紅—明星　明41・10(2)(3)君が心の科にとぞ参(無題)—都明41・10・23
〔新〕初版同
〔改〕初版同

27〔初〕(無題)—大阪毎日　明41・7・30(5)朝寢しぬるも参新詩社詠草—明星　明41・8
〔新〕(5)朝寢をぞする
〔改〕初版同

28〔初〕(無題)—大阪毎日　明41・7・30参新詩社詠草—明星　明41・8
〔新〕初版同

夕風や煤のやうなる生もののかはほり飛べる東大寺かな

むらさきの水したたりぬ手を重ねわがある岩の前の岩より

ああまぼろしうき現身のかたはらの虚の家に住み給ふ君

かなしさに枕もよばずわが寢れば疊もぬれつ初秋の晝

髪あまた蛇頭する面ふり君にもの云ふわれならなくに

君見よと心を虐ぐあるものとはげしくおつるあつき涙と

戸の中の少女よあけよ君が戀すぎたるを知りつぐのひにきぬ

〔改〕初版同

29〔初〕〔新〕新詩社詠草―明星　明41・8
〔改〕初版同

30〔初〕新詩社詠草―明星　明41・7
(3)(4)手をかさねわが在る岩の㊂
〔無題〕―大阪毎日　明41・7・4
〔新〕初版同
〔改〕(4)我がある岩の

31〔初〕〔無題〕―萬　明41・5・23(5)
住みたまふ君㊂新詩社詠草―明星
明41・7
〔改〕初版同

32〔初〕雁來紅―明星　明41・10(1)か
なしさは
〔新〕(2)枕も呼ばず(4)疊のぬれつ
〔改〕(2)枕も呼ばず(4)疊の濡れつ

33〔初〕雁來紅―明星　明41・10(1)(2)
毛のあまた蛇がしらする
〔新〕初版同
〔改〕初版同

34〔初〕新詩社詠草―明星　明41・7
(3)(4)或るものとはげしく落つる
〔改〕(4)はげしく落つる

35〔初〕新詩社詠草―明星　明41・7
〔新〕(2)少女よ開けよ
〔改〕初版同

青白し寒しつめたしもち月の夜天に似たるしら菊の花

しり長に酒召す人を舞子ども置きて河原にからくりを見る

あざやかに漣うごくしののめの水のやうなるうすものを着ぬ

わが背子がここちよげなる尾につきて二こと三こと云ふ春の朝

白蘭の園に麒麟を放つ日もものはかなき歎きをぞする

秋の雨わたり二間のわだとのの洞の中より灯をもちてきぬ

をかしかり此より君をさそひしと萬人の云ふさかしまごとも

36〔初〕催來紅—明星　明41・10
〔新〕〔初版同〕〔改〕〔初版同〕

37〔初〕新詩社詠草—明星　明41・8
(1)しりながに(4)おきて河原に

38〔初〕新詩社詠草—明星　明41・11
〔新〕〔初版同〕〔改〕〔初版同〕

39〔初〕新詩社詠草—スバル　明42・3㊂(無題)—都　明42・4・27
〔新〕〔初版同〕

40〔初〕百首歌—スバル　明42・5
〔新〕〔初版同〕〔改〕〔初版同〕

41※(3)わだとの→わたどの
〔初〕(3)百首歌—スバル　明42・5
〔新〕(5)灯を持ちてきぬ
〔改〕(5)灯を執りてきぬ

42〔初〕紘餘集—スバル　明42・1㊂
(無題)—二六　明42・1・27
〔初〕

火の跡の灰といささかことなれるこのおもむきを君は知るらむ

逢はましと思ひしものを紅人手一つひろひてかへりこしかな

石七つひろへるひまにわが心大人になりぬ石捨ててゆく

開かれておのれ入りたる大門よ後も閉ぢざるこの大門よ

君をおきて二三の子らのうはさする我は苦しきならひつくりぬ

秋かぜの夕の辻に立つときは昔わすれし人もこひしき

夕されば濱の出島のうたひめの島田にまじりかはほりぞ飛ぶ

43〔初〕(無題)—萬 明41・12・5(1)
火のあとの(4)趣をこの参紘餘集—スバル 明42・1
〔新〕〔初版〕同

44〔初〕紘餘集—スバル 明42・1参
(無題)—都 明42・2・12
〔新〕〔初版〕同
〔改〕〔初版〕同

45〔初〕新詩社詠草—明星 明41・8
(5)石すてゆく参(無題)—二六 明41・8・21
〔改〕〔初版〕同

46春泥集491参照
〔初〕百首歌—スバル 明42・5参
(無題)—都 明42・5・5
〔新〕〔初版〕同

47〔初〕雁來紅—明星 明41・10
(4)われは苦しき参(無題)—都 明41・10・20
〔新〕〔初版〕同

48〔初〕雁來紅—明星 明41・10
風の参(無題)—二六 明41・11(1)秋
13

49〔初〕新詩社詠草—明星 明41・7
(1)ゆふされば
〔新〕(1)タには
〔改〕(1)タには
(5)かはほりの飛ぶ

山山に青木の柵を結ふ神の來しと夢みぬ春くることを

雪の日は深靴を穿くさばかりの慮りも戀に無してふ

おなじ火に燃えたまふべき心かと一たび問ひぬ死のしばしまへ

男をばはかると云ふに近き戀それにもわれは死なむとぞ思ふ

冬の夜を半夜いねざる曉のこころは君にしたしくなりぬ

山薫る四月と海の風ほめく八月などを好みぬわれは

むらさきに春の風吹く歌舞伎幕うしと思ひぬ君が名の皺

50〔初〕新詩社詠草—明星　明41・7
〔改〕〔新〕(4)來しと思ひぬ
〔新〕同

51〔初〕新詩社詠草—明星　明41・7
〔新〕(2)ふか靴を穿く
〔改〕同

52〔初〕紘餘集—スバル　明42・1(1)
〔同〕火に(5)死のしばし前
〔新〕(5)死のしばし前

53〔初〕(無題)—二六　明41・12・15
〔参〕紘餘集—スバル　明42・1
〔無題〕都　明42・2・7
〔新〕〔初〕版同
〔改〕〔初〕版同

54〔初〕新詩社詠草—明星　明41・11
〔新〕〔初〕版同
〔改〕〔初〕版同

55〔初〕新詩社詠草—明星　明41・11
〔新〕(1)山かをる
〔改〕(3)かぜほめく

56(1)〔初〕新詩社詠草—明星　明41・11
(2)紫に春のかぜ吹く
〔改〕〔初〕版同

泣くことを制することは知らぬ子のあまたにわれはかかづらひつつ

日をば見ぬかげにかくれて戀せむとあへて思ひしわれならねども

みづからの戀のきゆるをあやしまぬ君は御空の夕雲男

人すつるわれと思はずこの人に今重き罪申しおこなふ

いと高き檜に風の擦るる音きく一つ家の寢臺を借りぬ

蟲巣くひ壁もはしらも食みさりぬわが住む家をわが心から

石の階一つ一つに沓すりて上れと云ふや羽ある人に

57〔初〕紘餘集—スバル　明42・1(2)
制することを

58〔初〕(無題)—大阪毎日　明41・12・9(3)戀をせむと参紘餘集—スバル　明42・1・28
〔改〕初版同

59〔初〕新詩社詠草—明星　明41・8
(2)戀の消ゆるを参(無題)—大阪毎日　明41・8・20
〔新〕(2)戀の消ゆるを
〔改〕新同

60〔初〕雁來紅—明星　明41・10
〔新〕初版同
〔改〕(1)人捨つる

61〔初〕百首歌—スバル　明42・5
〔新〕(5)夜床を借りぬ
〔改〕(5)夜の床を借る

62〔初〕新詩社詠草—明星　明41・7
参(無題)—萬　明41・7・4
〔新〕初版同
〔改〕(3)食み去りぬ

63〔初〕新詩社詠草—明星　明41・7
参(無題)—大阪毎日　明41・7・8
〔新〕(1)石の階(4)のぼれと云ふや

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.